

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 28 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20500684

研究課題名 (和文) 学校で活用できる地域の食文化の教材化を目指して
— 沖縄の屋取集落の実態を中心に —研究課題名 (英文) Use of Local Dietary Culture as the Teaching Materials for High Schools :
Focusing on the Reality of Yadui Villages of Okinawa研究代表者 田原 美和 (TAHARA MIWA)
琉球大学・教育学部・准教授
研究者番号：30347124

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・食生活学

キーワード：食文化、沖縄、屋取

1. 研究計画の概要

沖縄県は国内でも唯一、亜熱帯に属する地理的特性に加えて、かつては琉球王国として独立していた歴史的背景がある。琉球王国時代の約 500 年間に、中国、東南アジアとの交易、第二次世界大戦後は米国統治等により外来文化を受容し、それらを混在あるいは融合させながら独自の食文化を形成してきた。そのため、沖縄の食生活の変遷や食文化は日本本土とは異質のものもみられ、学校現場では地域の実態に沿った授業展開が必要だと思われる。

そこで本研究では、沖縄の伝承されてきた食素材や調理法、料理の変遷を時代区分ごとに分類、さらに県内の古老を中心に聞き取り調査を実施しながらデータベースを作成し、沖縄の食文化に関する地域の実態に沿った指導内容の検討、授業で活用できる資料や教材を作成する事を目的としている。

2. 研究の進捗状況

本課題の研究手法と、これまでに得られた成果等は下記の通りである。

(1) 沖縄の伝承されてきた食素材や調理法、料理の変遷を時代区分ごとに分類し、データベース化に取り組んでいる。また、文献検索に加え、沖縄本島および離島の八重山地域におけるフィールドワーク等により、学校で活用できる地域の「食材」や「食文化」の教材化に向けての基礎資料を収集した。

(2) 沖縄の「屋取集落 (土族の帰農によって形成された集落)」の発生とその変遷を文献・史料、先行研究等から把握し、その記録から屋取集落と地元集落の食生活状況等に

ついて比較・検討を行った。併せて首里・那覇の都市地域から、貧窮士族が帰農した地域における食文化の伝播について考察し、その成果の一部を学会および論文で報告した。詳細は、下記の代表的な研究成果参照。

(3) 模式的な「屋取集落」の古老からの聞き取り調査および各市町村史の記録から、第二次世界大戦以前は、屋取・地元集落の食形態では日常・行事の食に差異がみられるものもあった。しかし、戦後は軍用地の強制徴収等もあり、屋取集落の廃絶、地元集落との融合、都市化、その他にも食生活の多様化、食の外部化傾向といった様々な要因から、食に関する事柄に関して現在では、画一化傾向にあるものと推察した。

(4) 上記の(1)から(3)までの成果等を踏まえ沖縄の食文化に関する地域の実態に沿った指導内容の検討、授業で活用できる資料や教材を作成中である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 本研究課題の当初の目的・計画に沿った研究を進めている。今後も継続した調査が必要な項目もあるが、ほぼ順調である。

4. 今後の研究の推進方策

(1) これまでの研究成果、資料を活用しながら主に高校の「家庭科」で活用できる教材・資料を作成する。併せて平成 23 年度、予定している沖縄県内の教員を対象とした講習会等で活用し、評価を行う。

(2) 地域の食材や食文化に関しては、内容が

多岐に渡るため、今後も継続した調査が必要になる。特に、「屋取集落」は沖縄本島及びその周辺離島地域と広範囲に及ぶため、平成23年度も可能な限りフィールドワークを実施し、資料収集を予定している。併せてデータベースも継続して作成する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

田原 美和：沖縄の屋取集落の食生活に関する一考察 ―文献・史料を中心に―：琉球大学 教育学部紀要：第79集：2011年8月発行
予定：査読無

〔学会発表〕(計1件)

田原 美和：「文献にみる沖縄の屋取集落の食生活」日本家政学会九州支部大会：2009年10月17日：西九州大学短期大学部